

平成28年度

全国学力・学習状況調査の
結果について



海老名市立大谷中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家的人是、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
 - ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成28年4月19日(火)



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 話す・聞く能力に優れています。特に設問5の一で問われた、相手や場に応じた言葉遣いなどに気をつけて話す力に優れています。また、設問7の二で問われた、互いの発言を検討して自分の考えを広げる力に優れています。
- 言語に関する技能等も、特に文字の大きさや配列への意識が高いことがうかがえました。

《努力を要する所》

- 書く力に課題があります。特に設問2の一で問われた、伝えたい事柄が、相手に効果的に伝わるように書く力に課題があります。また、設問4の一で問われた、文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く力に努力が必要です。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 読む能力に優れています。特に設問1の二や設問3の二で問われた、複数の資料や文章を比較したり関連づけたりしながら、目的に応じて必要な情報を読み取る力に優れています。また、設問2の二で問われた、目的に応じて文章を要約する力にも優れています。

《努力を要する所》

- 書く力に課題があります。特に設問1の三で問われた、文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書く力に課題が見られます。特に、求められている観点について、具体的に表現する力に努力が必要です。また、無解答も1割近くありました。

これまでの取組から

- 音読やそれを聞き味わうことを重視して、言語活動ならびに言語に関する思考の深まりを促す取組を継続してきました。

今後の具体的な取組について

- 相手に効果的に伝わるように書く力を高めるため、体言止めや倒置法などの表現上の技法について改めて考え、自己の表現を吟味したり、他の表現について書き手の意図を説明したりする学習を工夫します。
- 書いた文章を推敲する際に、伝えたい事柄が具体的で明確になっているかに留意させるとともに、それについて検討し合うグループ活動も工夫します。

数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「関数」における、数学的技能及び知識・理解に優れています。特に設問10(2)で問われた一次関数の式から変化の割合を求める知識・理解、設問10(3)で問われたグラフから、 x の変域に対する y の変域を求める技能や、設問11で問われた事象を関数の式に表す技能に優れています。

《努力を要する所》

- 「数と式」における、数学的技能に課題があります。特に設問2(1)で問われた、数量の関係を文字式に表す技能や、設問3(3)で問われた、具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくる技能などに課題が見られます。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「図形」における、数学的な見方や考え方に優れています。特に設問4(1)で問われた、筋道を立てて考え証明する力や、同(2)で問われた、付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明する力などに優れています。
- 「関数」における、数学的な見方や考え方にも優れています。

《努力を要する所》

- 「資料の活用」における、数学的な技能に課題があります。特に設問5(2)で問われた、与えられた情報から必要な情報を選択し、相対度数を求める式など、数学的に表現する力に努力が必要です。

これまでの取組から

- 計算を中心に反復練習を行い、基礎・基本の定着を図りました。
- 発問に応じた適切な問題解決方法が身につくよう、様々な図形の性質を理解させるよう工夫しました。

今後の具体的な取組について

- 数や言葉を使った式を利用したり、線分図等の図に表したりして、事柄や数量の関係を捉え、文字式に表す練習を工夫します。
- 具体的な場面における数量の関係を見だし、比例式を作る取組を工夫します。また比例式を方程式に変形する方法も復習します。
- 目的に応じて資料を整理し、資料の傾向を読み取り、解決の構想を立てる活動を工夫します。また、相対度数の必要性和意味についても理解を深める工夫をします。

生徒質問紙の結果より

※ 数値の単位は%、()内は全国平均との差
※「肯定的な回答」は「当てはまる」と「どちらかと言えば当てはまる」の計

学習について

《よかった所》

- 学習の基盤が整えられています。話し合い活動の意欲に肯定的回答は67.3(+8.4)、意見発表の工夫は65.2(+7.5)と顕著に優位でした。
- 数学への意欲が旺盛です。諦めずに取り組む態度に肯定的な回答は77.1(+5)、解法の工夫は75.9(+6.9)と顕著に優位でした。

《課題と思われる所》

- 話し合いに意欲が高い一方、自分の考えが深まり広がったなど、話し合いによる成果はあまり感じていないことが分かります。肯定的な回答は60.4(-4.4)となっています。話し合い活動の質の向上が課題と言えます。
- 自分の考えを書く機会が少ないことが分かります。肯定的な回答は56.2(-6)となっています。

生活について

《よかった所》

- 規範意識が高いです。特に「いじめはどんな理由があってもいけないと思うか」の問いに肯定的回答が、98.4(+4.8)ありました。
- 自尊心が高いです。特に「難しいことにも失敗を恐れず挑戦しているか」の問いに肯定的な回答が、73.8(+4.2)ありました。

《課題と思われる所》

- 生活習慣に課題が見られます。特に「毎日同じくらいの時間に寝ていますか」の問いに、肯定的な回答は69.5(-5.7)でした。平日における携帯電話やスマートフォン等の使用時間が長いと考えられます。1日2時間以上の回答が39.6(+9.5)ありました。

これまでの取組から

- 「自己肯定感のある生徒の育成」を重点目標として、学校に行くことを更に楽しいと感じたり、物事を最後までやり遂げる達成感が感じられたりするような学校生活での取組（学習・行事等）を工夫してきました。

今後の具体的な取組について

- 学習においても生活面においても、基盤をなすのは人間関係作りという考えに基づき、一層の深化を図っていきます。
- 学校生活全体を通して、話し合い活動の質の向上を工夫するとともに、文章を書く機会を増やしていきます。
- 保護者とも協力し、規則正しい生活習慣の向上に努めていきます。

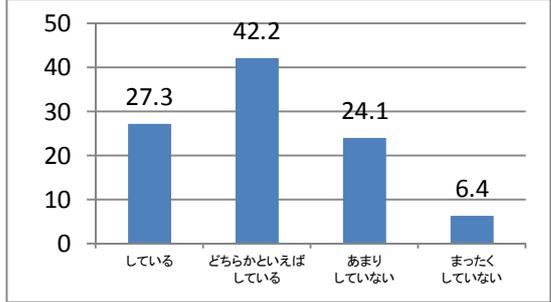
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 生活習慣を整えましょう。

食事や睡眠は、生活習慣の基本です。節度ある生活で、これらの確保に努めましょう。

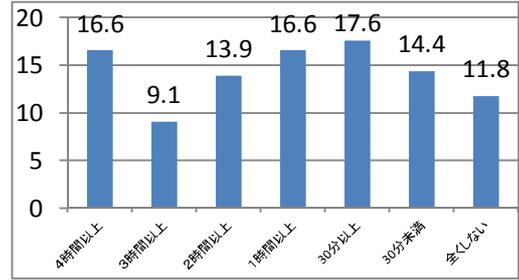
毎日同じくらいの時間に寝ていますか。



2 携帯電話等を使う時間に気をつけましょう。

生活習慣を圧迫し、健康や活力を損なうことにならぬよう、ルールを決めて使いましょう。

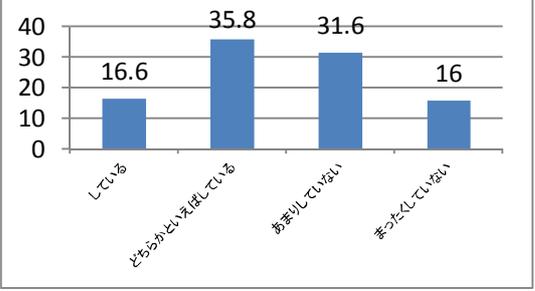
平日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンを使いますか。



3 家庭での学習を計画的に行いましょう。

復習・予習など、日常の学習も試験勉強も習慣と計画が大切です。

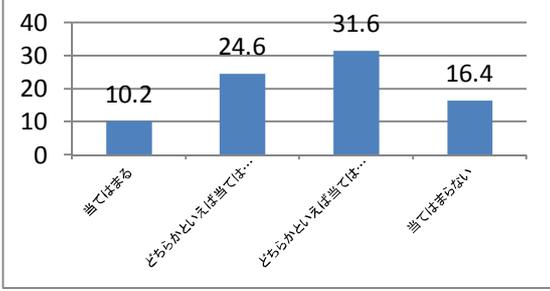
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



4 地域との関わりを大切にしましょう。

地域の一員としての自覚や責任感を強めることにもつながります。

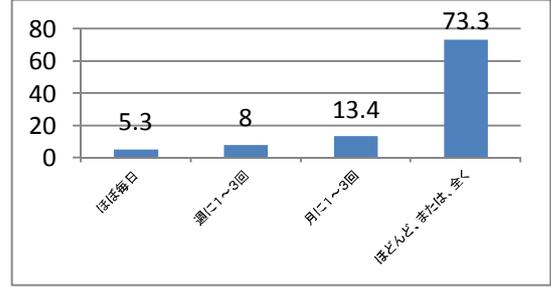
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



5 社会の出来事に関心を持ちましょう。

世界や社会は大きく動いています。社会への関心の幅を広げましょう。

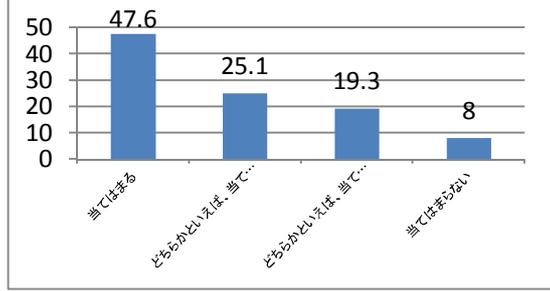
新聞を読んでいますか。



6 家庭で将来の夢や目標を語り合いましょう。

夢や目標イコール職業という見方だけでなく、どんな人になりたいかも語り合いましょう。

将来の夢や目標をもっていますか。





平成28年11月